

自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号 (37)

教育方針		生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。		重点目標	1 進路決定 100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育活動に関する方針に伴う活動	町や地域住民と連携して課題解決に取り組み、町内外から集まる仲間と切磋琢磨できる環境の充実を目指す。全職員でグラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシーを意識して地域全体が学びの場となるように工夫を続ける。	B	地域の方との連携を密にして協力体制を維持することができた。新学科の1年生を中心にプレゼンテーションの機会が増え、コミュニケーション能力が向上し、町内外から集まる仲間と切磋琢磨できている。	コミュニケーション能力のみならず、各ポリシーに対する意識を徹底させる必要がある。本校の取組目標が継続できるよう、引き続き、取組を進めていきたい。
	業務改善を目指す円滑な組織運営	ICT機器等を有効活用し、情報の共有を図るとともに、働きやすい環境づくりのために良好なPDCAサイクルを生み出す工夫を教職員同士で意見交換し、構築できるように取り組む。	B	校務支援システム等を活用し、各職員の動向管理など情報を共有することができた。それに伴い、比較的働きやすい環境の整備につながったと考えている。業務改善ソフトも積極的に活用できている。	職員室の大幅な席替え、机上を整理することにより、会話がしやすい環境の整備を行った。職員同士のコミュニケーションは活発になったが、業務に関する意見交換までには至っていない。価値のある会話となるよう研修が必要。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方を随時見直し、地域と連携した活動を行う。また、情報セキュリティに関して、生徒・教職員にセキュリティポリシーの啓発に努める。	A	学校防災教育実践モデル地域研究事業に指定され、細部までマニュアルを点検した。情報セキュリティに関しては教職員、生徒に対して、ともにセキュリティポリシーの啓発に努めた。	今年度改訂したものをもとに、次年度以降も引き続き、検討を続けていきたい。避難訓練などを実施した際に、事後の検証を大切にする。
学習指導	家庭学習の充実	公営塾とも連携し、高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A：150分以上 B：140分以上 C：120分以上 D：90分以上 E：90分未満	A	平常時の平均時間は158分であり、目標を達成することができた。昨年度より14分上回った。公営塾との連携がより密なものとなったことや、担任等による定期考査に対する意識付けと動機付けがなされたことや、進路への意識や進路実現への意欲の高揚も目標達成の要因の一つであると考察される。	1人1台端末やスタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。公営塾との連携も一層図っていきたい。
	教科指導の充実	教科学習・探究学習・実践学習においてSTEAM教育を実施する。 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 E：0回	A	本校は「学校防災教育指実践モデル地域研究事業」指定校に認定されており、「防災」をテーマに国語、地歴、理科、体育、家庭科、商業の教科で4回STEAM教育を実践することができた。生徒たちだけではなく、準備を通して教職員全体で防災への意識が高まった。	研究指定校の任期が終了しても防災教育への意識と意欲を高めていきたい。また防災だけではなく社会共創科として2年目となり、新たに学校設定科目が開始する授業もある。教科の枠組みを超え、よりよい教育活動を実践していきたい。
			漢検2級取得者3人、実用英検2級取得者5人、商業資格検定3種目1級合格者2名以上を目指す。 A：10人以上 B8人以上 C：6人以上 D：4人以上 E：4人未満	D	漢検2級取得1人、英検2級取得2人、商業資格検定3種目1級取得1人であった。目標を達成することができなかった。検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていく必要性を感じた。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	毎月1回の身だしなみ指導は実施したが、不合格者がいた。	普段から風紀委員会からの呼びかけを行い、身だしなみを整える意識を高める。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。横断歩道の使用、ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	自転車通学生はいないが、使用する時はヘルメットの着用するよう指導した。バイク通学生集会を行いその都度バイク通学生を集めて安全運転について指導した。全体を通して、徒歩、自転車、バイクでの大きな事故はなかった。	引き続き毎学期通学方法別集会を行い、バイク通学生については、月に1回集会を開き、交通安全指導を行う。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	A	予定通り奉仕活動を行い、環境美化意識を高めることができた。	次年度も継続して奉仕活動に取り組みたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を一人一役経験させる。	A	クラスの人数にばらつきはあるものの、各種専門委員を経験させることができた。	生徒数の少ないクラスがあるので、委員会活動が負担とならないように配慮したい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会、企業説明会を年2回以上実施する。	A	講演会1回、企業説明会1回、キャリアに関する授業（林業教室）1回、進路説明会1回実施。	生徒の希望や社会の実態を踏まえた上で、より社会に根差したキャリア教育を推進したい。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路意識の向上を図り、生徒の進路実現につなげる。	B	進路情報誌の配布やガイダンスの紹介等を適宜行った。（各学期5回程度）	ガイダンス等への参加数が多くないため、生徒の進路意識を高められるような案内を心掛けたい。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A：100% B：95% C：90% D：85% E：85%未満	(A)	現在、合格発表を待っている生徒や今後受験する生徒が10名残っている。	早め早めに生徒一人ひとりに応じた指導を行い、生徒の進路実現を達成したい。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	年3回のHRと講演会を実施し、人権意識の高揚が図られた。	次年度も生徒の実情にあったHR運営や、講演会を行っていききたい。
		人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実し、人権だよりを年1回以上発行する。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	B	毎月人権委員の挨拶運動、そして人権新聞を5回発行し、全校放送で内容を周知させた。	来年度も工夫を凝らした新聞の発行、そして委員会活動を行っていききたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	C	SNS関係の指導は、日頃から行っていく必要がある。そしてトラブルの未然防止を行っていききたい。	日頃からSNSでのトラブルの未然防止を図っていききたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	A	1年生の有志メンバーを中心に行った多文化共生新聞の作成や台湾の大学生との交流など、充実した国際教育活動ができた。	多くの人たちとの交流を通して、人権意識の高揚を図っていききたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	B	校内研修や初任研等を通して、教員相互の資質向上を図ることができた。	様々な研修の場を準備して、教職員の資質向上を図っていききたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	C	研究授業等を通して、教員の授業改善に役に立てることができた。ICT機器の活用についても年々意識が向上している。	様々な場で、授業公開を行い、教職員の資質向上を図っていききたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行するとともに、主体的な生徒保健委員会活動を目指し、SHR発表や掲示物作成等を積極的を行い、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	毎月保健だより発行の際に保健委員がSHR発表を実施した。全校集会発表においては、生徒が企画・運営において好奇心を持って表現することに挑戦し好評を得るとともに、健康意識向上に努めることができた。	生徒が自分の言葉で主体的に活動する保健委員会活動を継続させ、委員会活動を通してコミュニケーション力を高め、達成感を得られるような実践方法を考えていききたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	A	八幡浜保健所と連携し、10月食品衛生講話、11月性教育講話を実施した。性教育講話においては、性に関する実態把握ができ継続指導のきっかけとなった。	生徒の実態と健康課題に即した講話や研修等を取り入れ、心身の健康管理と意識向上に努めたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	毎月1回衛生委員会を実施し、教職員間の積極的な声かけや職場巡視等により職場環境の改善等に対応できた。	教職員健康管理医と連携し、感染症対策や職場巡視等を的確に行っていきたい
		教職員に対し、メンタルヘルス等の講話及び研修を年1回以上開催する。	A	7月メンタルヘルス研修会を実施した。思考特性による円滑なコミュニケーション術を学び、風通しのよい職場環境づくりに生かした。	引き続き、教職員の健康相談の充実とメンタルヘルス等の講話や研修を実施したい。
	安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	A	学期に1回防災の観点も含み安全点検を実施した。速やかな事後措置により安全管理が徹底できた。	事務課と連携し、施設設備の老朽化について対応優先するものを把握し、安全管理に努めたい。
図書活動	図書活動の充実	<u>朝の読書を全員が確実に行之、読書に対する意識を向上させる。</u>	B	前年度よりも意識を向上させることはできたと感じられるが、時間いっぱい行うなどまだ改善の余地がある。	朝読書の質を向上させるため、図書委員からの呼びかけなどを通して、より多くの生徒に読書の意識を浸透させるものにしていききたい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	B	図書館だよりの発行回数は目標に満たなかったが、教員のおすすめ図書コーナーを作るなど図書の紹介等、啓発を行うことはできた。	来年度も引き続き図書館だよりを発行し、生徒・保護者に啓発活動をしていきたい。
		図書館来館者数延べ250人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。 A：250人以上 B：200人以上 C：150人以上 D：100人以上	C	図書館来館者数延べ150人以上を達成することができたが、200人以上を達成することができなかった。	図書委員会で図書館の利用についてより工夫された啓発活動をしていくことで、多くの生徒に利用してもらえるようにする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

P T A 活動	P T A 活動の充実	ホームページに月ごとの行事予定を掲載したり、三崎高校だより「花橘」を毎月発行することで、学校行事や生徒の活動の様子を伝えていく。	A	確定した行事予定は翌月までにホームページに掲載することができた。生徒の活動の様子はFacebook等も利用して発信できた。毎月発行の三崎高校だより「花橘」やマチコミ等を通じて、保護者に必要な情報を伝えることができた。	生徒が参加する地域イベント等の情報が保護者に伝わるよう、ホームページやマチコミを使って発信したい。
		オンラインを利用することでP T A総会等の学校行事への出席率を向上させるとともに、交流を深められる活動を企画する。	A	P T A総会やP T A交流会ではオンライン参加も募り、多くの保護者に参加していただいた。P T A交流会は今年度から開催することになったが、参加者の相互理解が深まる内容で大変有意義であった。	学校行事を通して生徒の様子を保護者に見ていただくだけではなく、参加者同士の交流が図られる機会にしていきたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。文具類等のリサイクルの推進に努める。迅速かつ適正な事務処理をする。	B	光熱水費等の節約を啓発するとともに、計画的な予算執行をすることができた。ファイルの再使用等、リサイクルの推進に努めることができた。	引き続き、節約の啓発や消耗品のリサイクル推進に努めていきたい。
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	B	校内巡視や教職員からの連絡により、不良箇所の早期発見・早期対応に努めることができた。また、草刈機の購入により屋外環境の美化に努めることができた。	修繕を要する個所で未対応の箇所については、予算の状況により順次対応していきたい。
地域活動	地域と連携した取組	地域行事等への参加、年10回以上を目指す。 A：12回以上 B：10回以上 C：5回以上 D：3回以上 E：不参加	A	地域行事等に20回（今後の予定2回を含む）参加するなど、意欲的に地域活動等に参加することができた。	新型コロナウイルスの流行が収まったこともあり、地域からの依頼が増加しているため、参加方法なども工夫して生徒の負担を軽減させながら活動できるようにしていきたい。
	生徒の自主的な活動の充実	各種コンペやコンクールに積極的に応募する。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	コンクール等に6回応募し、「ネイチャー甲子園」3位、「いやしの南予BBQ甲子園」最優秀賞などの成果を収めた。	校内で役割分担をし、生徒の関心に合わせ積極的にコンクール等に参加できる体制を整えたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。